クローズアップ

知ってください、子どもの発達障がい

理解と支援で、一人一人の可能性を育む

発達障がいは、発達にばらつきがあったり、コミュニケーションが上手くとれないなどの特性があるため、周囲から誤解を受けやすいものです。しかしその特性を本人や家族、周囲の人がよく理解し、その人に合った支援を受けることができれば、日常生活や集団の場でも可能性を生かしながら自分らしく生きていくことができます。

発達障がいの可能性がある小・中学生の割合は6.5％（※）と報告されており、身近な障がいであるといえます。

今号では、発達障がいへの支援に関わる専門家のほか、発達障がいの子どもがいる保護者、当事者のインタビューを紹介します。発達障がいについて理解を深めるきっかけにしてください。

※文部科学省「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査（平成24年）」より、「知的発達に遅れはないものの、学習面又は行動面で著しい困難を示す」とされた公立小・中学校の児童・生徒の割合

発達障がいの特性

同じ状態にみえても、育て方や本人の努力不足ではない

それぞれの障害の特性

自閉症
広汎性発達障害
アスペルガー症候群

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

知的な遅れを伴うこともあります

- 基本的に、言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより
- 不器用（言語発達に比べて）

注意欠陥多動性障害 AD／HD

- 不注意（集中できない）
- 多動・多弁（じっとしていられない）
- 衝動的に行動する（考えるよりも先に動く）

学習障害 LD

- 「読む」、「書く」、「計算する」などの能力が、全体的な知的発達に比べて極端に苦手

※このほか、トゥレット症候群や吃音（症）なども発達障がいに含まれます

※発達障害情報・支援センターホームページより引用。診断基準改定に伴い、自閉症、広汎性発達障がい、アスペルガー症候群は現在、「自閉症スペクトラム障がい」（DSM-V）といいます

この人に聞きました

大阪医科大学LDセンター
言語聴覚士・
水田めくみさん

発達障がいには、一般的に上図のようないくつかのタイプがあります。しかし同じ名前、似た特徴があっても、原因や年齢・環境が違うと、一人一人に合う支援は異なります。例えば「先生の話を聞く時に、静かに座っていられない」というA君とBちゃんの場合、A君は好奇心旺盛で目に入るものが気になって立ってしまいますが、Bちゃんはたくさん人がいる慣れない環境に不安で、落ち着かないなど、原因が違うことがあり、対応も異なります。

発達障がいのある子どもは、発達のしかたが凸凹していたり、外から入ってくる情報の取り入れ方・感じ方に、私たちと大きな違いがあります。皆と同じようにできることもたくさんあるので「本人の努力不足・しつけの問題」と誤解されることも多いですが、発達障がいは生まれつき脳の機能に違いがある・脳の一部がうまく機能しないことが原因なので、何度も練習すれば乗り切れるというものではありません。特に発達の途中にある子どもには、周囲の大人がその子どもの特徴や個性をよく理解して、適切な支援方法を提案する必要があります。

適切な支援や工夫を受け成功体験を積み重ねる

幼少期・学齢期の早い段階で、親・教師など身近な大人が子どもの状態に気付き、適切な支援をしていく「早期療育」が重要と考えられます。どんなに小さくても子どもなりに「うまくいかない・上手にできない自分」に気付いています。その子に合った適切な支援や工夫があると、成功体験や自己肯定感をたくさん実感することができ、自信を持って集団で学ぶ気持ちが育ちます。

子ども自身が周囲に支援を求められるように

子どもに合った工夫や支援を行うもう一つのメリットは、子ども自身が自分の苦手なことを把握し、得意なことを生かすためにどのような方法があるかを周囲に伝えられるようになることです。これは将来社会で自立するために、誰にとっても大切なことですが、発達がアンバランスな場合、特に自分に合った仕事・環境を見つけ、そこで出会う仲間や上司とうまくコミュニケーションできることが充実した社会参加につながります。

支援は親だけではなく、先生、専門家が連携するもの

ひとりの子どもへの支援では、親だけでなく、その子に関わる全ての大人、例えば園・学校の先生や病院、療育機関の専門家、通っている習い事や地域の大人たちの連携が望まれます。子どもの特性を深く理解し、子どもの得意なことを伸ばしながら苦手なことを補う方法を、多くの人の知恵を借りて獲得し、将来にわたって支えることが大切です。

発達に課題がある子どもへの療育

対人関係を大切に

市では、発達に課題があると思われる子どもを対象に、さまざまな療育事業を行っています。未就学児向けに集団療育を行うのが「めばえ教室」（左欄）、「うの花療育園」など）です。

集団療育のほかに、保育所や学校などへ訪問する「保育所等訪問支援」があります。訪問支援員の中西さんに、療育方法についてお伺いしました。

めばえ教室（筆とローラーでお絵かき。療育者が線路を描き、「●●へ電車が出発するよ」と声を掛け、子どもたちも真似をする。想像力を養う「見立て遊び」を実施）

めばえ教室…言葉が遅い、落ち着きがないなど発達や行動面で心配のあるおおむね２歳児と保護者が通う。さまざまな遊びを中心としたプログラムを通して、保育士、臨床心理士、言語聴覚士、看護師など専門職が子ども一人一人に合わせて関わる中で、操作性や調整力、他者との関係性の力が育まれる。また保護者は相談や保護者同士の関わりを通して子育てについて学ぶ場となる

療育現場では、保育士、児童指導員、臨床心理士、言語聴覚士などがチームとなり、子どもの行動の意味をそれに至ったプロセスから丁寧にひも解き、どう子どもと関わっていけばいいかを考えます。

療育者が子どもと接するときに大切にしていることは、対人関係を育むことです。一人遊びが好きな子どもに対しても、子ども目線で一緒に遊びに参加します。子どもが「この大人が一緒だと楽しいな」と思えるようになると、人は安心できる存在だと認識できるようになり、困ったときには人に頼れるようになります。

学校などを訪問し、子どもの特性を生かした工夫を提案

保育所等訪問支援は、子どもが学校や幼稚園、保育所などで過ごしやすくなるよう、支援のあり方を療育者から子ども、保護者、担当職員（先生など）に伝えていくものです。保護者からの依頼を受けた訪問支援員が、学校・園に出向き子どもの様子を観察し、子どもの特性を生かしながらクラスの環境や関わり方など、具体的なアドバイスを行います。

親にも寄り添い支援

発達に課題がある子どもを抱える保護者は、時に子どものトラブルをしつけのせいなどとがめられ悩むこともあります。療育施設では、子どもと親の両方に寄り添い支援をしていきます。しんどい思いをしているなら、ぜひ私たちを頼ってください。

この人に聞きました

市立うの花療育園
保育所等訪問支援事業
児童発達支援管理責任者
訪問支援員・
臨床心理士
中西真佐子さん

こんなときどうする？ 子どもへの関わり方 アドバイス

①友達や親をたたく

なぜたたくのか、何をしたくてたたいているのか、本人の思いを考えたり、聞いてみたりしてください。親をたたいて思いをぶつけている場合は、「お母さんはたたかれると悲しいわ」などと親自身の気持ちを伝えてください。そして子どもに、思いを伝えるための適切な手段を手を添えて伝える、代弁するなどして、具体的にどうしたらよいかを教えてあげてください。

②忘れ物が多い

どうして忘れ物をするのか、その原因がどこにあるのか子どもの行動をじっくり観察して考えてみましょう。用意をする際、絵などで表現した視覚的に分かりやすい持ち物リストを目につくところに貼り、リストを見ながら大人と一緒に用意するといった流れを作るのもいいでしょう。

発達に不安を感じたら

早めに相談を

子どもの発達に不安を感じた時に相談できる窓口として、児童発達支援事務所などがあります。同事務所では、0～18歳未満の子どもの発達に関する相談や制度の利用、療育などのサービスの支給決定を行っています。

サービスには、児童発達支援や12ページの保育所等訪問支援などがあり、これらのサービスを利用するために利用計画を作成する障がい児相談支援があります。

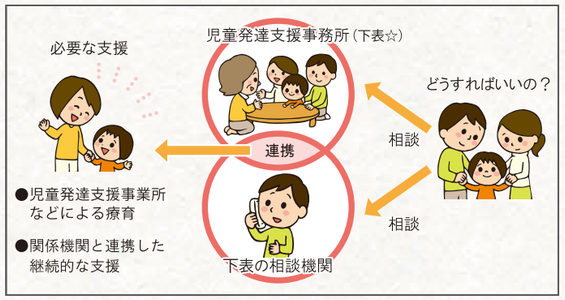
また、市では、昨年から子育て世代包括支援センターを開設し、妊娠・出産にはじまり、乳幼児期から小学校入学までの子どもの発達に応じた育児相談や支援を行っています（下欄）。相談の流れと各相談機関を紹介します。

乳幼児健診など成長発達に応じた相談

乳幼児は発育・発達の個人差が大きく、保護者は心配や不安を生じやすい時期です。子ども保健課では4カ月・1歳6カ月・3歳6カ月の時期に乳幼児健診を開催し、医師や歯科医師、保健師、栄養士、歯科衛生士、心理相談員などが相談への対応を行っています。

いずれの健診も、子どもの様子を聞き、保護者とともに、家庭での育児についての工夫や改善などの取り組みを考えていきます。

子どもの発達に不安を感じたら・・・



児童発達支援事務所では、サービスの支給、サービス利用についての相談、発達に関する相談を実施。その後、各療育施設への申し込みになります

相談窓口

乳幼児期の相談

妊娠・出産・乳幼児の発育・育児・栄養に関すること

子ども保健課（☎661・1108）

児童発達支援相談

0～18歳未満の子どもの発達（言葉が遅い、友達と遊べない、落ち着きがないなど）の心配事や療育に関する相談

☆**児童発達支援事務所（子育て総合支援センター内☎686・3032＝サービス利用の相談）**

相談支援チェリー・ハート（芝生町一☎679・1760）※運営は育成福祉会

こども相談支援センターwish（城北町一☎605・1140）※運営は北摂杉の子会

聖ヨハネ子どもセンター（北園町☎686・3062）※運営は聖ヨハネ学園

就学前の子どもの発達に関する相談

めばえ教室（障がい者福祉センター内☎674・9282、第2＝うの花療育園内☎685・3804）※運営は聖ヨハネ学園

児童家庭相談

0～18歳未満の子どもに関する児童家庭相談

児童家庭相談事務所（子育て総合支援センター内☎686・5431）

子育て、いじめ、不登校など子どもに関するさまざまな悩みと生活に関すること

府吹田子ども家庭センター（☎06・6389・3526）

小・中学校での生活

全小・中学校の特別支援教育コーディネーターが相談を受け付けるほか、学校生活を送る上で特別な支援が必要な翌年度入学予定の児童の保護者を対象に、就学説明会や個別の相談を市教育委員会で実施（5月ごろ予定）

教育指導課（☎674・7631）

18歳以上向け障がいに関する相談支援

障がい者手帳、就労訓練などの障がい福祉サービスの利用についての相談

障がい福祉課（☎674・7164、FAX674・7188）

障がい者の就労に関する相談

障がい者雇用相談　※第2・4月曜日午後1時～4時に総合センター12階で。申し込みは電話かファクスで、産業振興課（☎674・7411、FAX675・3133）へ

こころの健康相談

精神科受診に関する相談

保健予防課（☎661・9332）

発達障がいと　ともに歩む

インタビュー

娘が自閉症と診断された母、自身が発達障がいと診断された男性。それぞれの立場から、障がいを抱えながらこれまでどう人生を歩んで来たのか、お話を伺いました。

できないことを何とかするよりも、できることを伸ばしてあげる

娘が発達障がいと分かったとき、親としてこれからどう育てていけばいいのか悩みました。集団の中でも友達と関わろうとせず一人で行動する娘を見て辛かったです。ほかの子と同じことができない娘を叱ったこともありました。

目の前の課題よりも将来のことを考える

私は障がいについて勉強し、娘が少しでも集団生活を送れるように努力することが親の務めだと思っていました。しかしある日、児童精神科の医師に「目の前の課題よりも、子どもの将来のことを考えて今何をしたらいいかを考えて取り組むべき」と言われ、はっとしました。私は娘ができない課題をなんとかできるようにと必死になっており、娘の特性や可能性に目を向けていなかったのです。娘のできることを伸ばすために、感じ方や理解の仕方に目を向けていくと、娘の将来にとって何を優先すべきか、分かるようになりました。

現在娘は事業所で働いています。平日は、障がい者の生活施設で暮らし、週末は自宅で家族と過ごしています。はじめは娘も施設暮らしにストレスを感じ苦しんでいましたが、施設の方々に相談し、いろいろな工夫をしてもらいながら、現在は落ち着いています。新しい環境に入るときは、子どもも親も一番しんどいときですが、子どもが社会と関わるチャンスだと思い、親は勇気を持って行動すべきだと思います。支援してくれる人は必ずいます。

インターネットではなく、信頼できるところへ相談を

障がいのある・なしに関わらず、子育てに悩んでいるなら、一人で抱え込まずに誰かに相談することが一番です。インターネットだけでは、情報に振り回されるので市の窓口など信頼できるところに相談してください。また親同士のつながりも支援に関する情報共有ができ、大きな支えとなるので、親の会などに参加することもおすすめです。

また、規則正しい生活を送ることが大切だと思います。決まった時間に起きる、食べる、寝る。毎日の生活リズムは脳の機能と健康面に影響します。

そして楽しい、苦しいなどの親が出す空気は、障がいのある子どもにも伝わります。子どもと過ごして楽しいな、と思える時間を大切にしてほしいです。

三宅　孝子さん

娘の障がいをきっかけに、自閉症スペクトラム支援士の資格を取得。現在は発達障がいと保護者のためのサポート教室を主宰

三宅さんから

子育て中の親へのアドバイス

- 子どもの「できること」「好きなこと」に目を向ける
- 一人で悩まずに、市の窓口に相談する
- 規則正しい生活を送る
- 子どもといて楽しい時間を大切に

支援を受けることで、前向きに取り組めるように

Aさん　（30代、男性）

私は小さいころから、自分の思いを相手に伝えることが苦手でした。学生時代、授業中に先生に当てられても、何も発言できずに戸惑ったことが多々ありました。また自分から人に話し掛けることができず、友達を作ることにも時間がかかりました。そのころから、自分はほかのクラスメートとどこか違うなと感じていました。

事業所で学び、自分の思いを伝えられるように

発達障がいという診断を受けたのは、大学を出てからです。それから福祉の事業所などを経て発達障がいに特化した職業訓練の事業所に通いました。事業所では、仕事のスキルだけでなく、コミュニケーションについて学ぶことができました。就職時の面接では、長所だけでなく、できないこと、こうしてほしいことを伝えることができました。自分から声を掛けることは苦手だけど話をすることは好きなこと、予定の変更は事前に知らせてほしいこと、仕事の指示は具体的な方が理解しやすいことなどです。現在私は北摂総合病院で働いていますが、同僚や上司の皆さんがいろいろと配慮してくれており、働きやすい環境を作ってくれています。

病院内の空調調節など、施設管理を行う（北摂総合病院）

仲間との出会いが励みに

私と同じように生きづらさを感じて困っている人に言いたいのは、人生というのは、つらいことばかりではなく、楽しいこと、うれしいことがあるから、あきらめずに自分に合った居場所を見つけてほしいということです。私自身、学生時代はつらかったです。発達障がいについて周囲も私自身も理解できていなかったからです。しかし、発達障がいと分かり、サポートを受けられる場に身を置き、自分を応援してくれる支援者やお互い共感したり励まし合ったりできる仲間と出会うことができ、気持ちが楽になり前向きに取り組めるようになりました。自分を応援してくれる人がいるということは、とても励みになります。

これからの目標は、いろんな業務を覚えて、職場で信頼される人になることです。またこれまでずっと支えてくれている両親を旅行に連れていってあげたいと思います。

Aさんが伝えたいこと

- 人生というのは、つらいことばかりではなく、楽しいこと、うれしいことがあるから、あきらめずに自分に合った居場所を見つけてほしい

「理解して、見守る」できることから始めよう

発達障がいを抱えていても、周囲の理解とサポート次第で、前向きに本人の可能性を広げていくことができます。

昨年には、障がい者への不当な差別的取り扱いと合理的配慮の不提供を禁止した「障害者差別解消法」が施行されました。障がいのある人、ない人がお互いに理解し合える社会になるよう、私たちは努めなければなりません。

周りの人が発達障がいの特性を正しく知り、一人一人の違いを認めて適切にサポートすることが大切です。

支援や配慮は、そう難しくありません。例えば、困っている人を見掛けたら、具体的に簡単な言い方で、何に困っているか声を掛けてください。またパニックになったり立ち往生している場合は、安全で静かな場所で落ち着けるよう手助けしたり、見守ってもらえると、本人はずいぶん楽になります。

発達障がいを理解し、できることから、始めてみましょう。